

## 外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/06/27

### ギリシャ問題が目先ヤマ場を迎える

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ユーロ/円</a>	➡	ギリシャ議会の動向に注目 予想レンジ: 112.50 ~ 115.80 円	2-3
<a href="#">ユーロ/ドル</a>	➡	ギリシャ議会緊縮財政法案採決に注目 予想レンジ: 1.3850 ~ 1.4350 ドル	4-5
<a href="#">ポンド/円</a>	↘	弱材料に反応しやすい? 予想レンジ: 127.00 ~ 130.50 円	6-7
<a href="#">ポンド/ドル</a>	↘	ユーロ/ドルの動きに連れる 予想レンジ: 1.5750 ~ 1.6110 ドル	8-9
<a href="#">経済指標 カレンダー</a>		一週間の予定を一覧で表示	10-11

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# EUR/JPY

## ユーロ/円 6/20~24までの主な推移



<p><b>6/20</b> Monday</p>	<p>19日夜に行われたユーロ圏財務相会合でギリシャ向け次回融資についての結論が先送りされた事などからユーロ/円は113.58円まで下落した。(①)しかしその後、ユンケル・ユーログループ議長が「ユーロ圏財務相らは欧州安定メカニズム(ESM)の枠組みの詳細について合意した」「ユーロ圏は安定性のために必要なことは全て行う」などと述べたのに続き、レグリング・欧州金融安定ファシリティー(EFSF)最高経営責任者が「EFSFの保証は将来4400億ユーロから7800億ユーロに引き上げられるだろう」と述べた事が好感されてユーロは反発した。</p>
<p><b>6/21</b> Tuesday</p>	<p>この日ギリシャで行われる予定の改造内閣に対する信任投票で、賛成多数で可決される見込みとなると、同国の債務不履行(デフォルト)懸念が緩和するとの見方からNYダウ平均が上昇した事もあって、ユーロ/円は115円台半ばまで上昇した。その後、現地時間深夜(日本時間22日早朝)に、ギリシャ新内閣が議会で信任されたと伝わると、115.79円の高値を付けた。(②)</p>
<p><b>6/23</b> Thursday</p>	<p>米新規失業保険申請件数が42.9万件と予想(41.5万件)以上に増加していた事を嫌気して時間外のNYダウ先物が下落。また、その後、国際エネルギー機関(IEA)が6000万バレルの石油備蓄放出を発表すると、原油価格が急落した。株安・原油安を受けてリスク回避の動きが強まると、ユーロ/円は113.84円まで下落した。(③)</p>
<p><b>6/24</b> Friday</p>	<p>格付け会社ムーディーズによる格付け見直し引き下げを受けてイタリアの銀行株が一時売買停止となるなど、大幅に下落。イタリア国債が売られ、独・伊国債利回り格差が過去最高水準に拡大すると、ユーロが急落した。さらに、一部ギリシャ与党議員が(国際支援の条件とされる)緊縮財政法案に反対票を投じる見通しと伝えられた事もユーロ売り材料となり、ユーロ/円は113.77円まで下落した。(④)</p>

### 上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

### 下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
- 欧州金融機関に対する懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

# EUR/JPY

## 今週の見通し

先週のユーロ/円相場は113.58円～115.79円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約0.2%の小幅下落(ユーロ安・円高)となった。ギリシャは29日にも緊縮財政法案を議会で採決する。欧州やIMFの支援は、この法案が通ることが前提になっており、通らなければ、7月、8月の国債償還を乗り切れない可能性が高まる事になる。ただ 新内閣がすでに議会で信任されており、緊縮財政法案も議会通過する可能性が高いと見られている。もっとも、それだけに万一否決された場合にはユーロ急落は避けられないだろう。一方、予想通り可決された場合でもユーロが上昇するかどうかはやや不透明だ。ギリシャ問題では、今回の融資のほかに、追加支援の新たな枠組みを決める作業が残っており、民間金融機関の支援参加などをめぐって議論が紛糾する可能性が高い。この追加支援についての議論が行われる7月3日のユーロ圏財務相会合を前に、ユーロが大幅に上昇する事は考えにくい。(神田)

(予想レンジ:112.50～115.80円)

## テクニカル分析

【移動平均線】  
 20日線 60日線 200日線  
 【ボリンジャーバンド】  
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/円 6/25週足引値:114.12円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)ユーロ/円は、88.93円(2000/10安値)から169.95円(2008/07高値)へと81.02円上昇したあと、大きく下落した。それから、105.42円(8/24)を安値、115.97円(3/04)を高値にもみ合ったあと、4/11に123.33円まで上昇して以降は揉み合い推移となっている。先週のユーロ/円は6/16に安値113.50円を見たが、下値押し の勢いもまずはそこまでとなった。取引値は20日線(115.80円、6/25)、60日線(117.43円、6/25)を下回っているが、200日線(113.94円、6/25)よりも上値に水準にある。ボリンジャーバンドは6/25現在、上限:117.99円～下限:113.61円で、バンド上限はやや上昇、下限は取引値が押し下げる形で下落しており、バンド幅はやや拡大している。下落気味の推移であるが、下値トライをして113円近辺まで見ても、瞬間となる可能性があると考えるところ。上値ポイントは、①115.80円(20日線、6/25段階)、②117.43円(60日線、6/25段階)、下値ポイントは①113.94円(200日線、6/25段階)、②113.39円(5/16安値)、③112.87円(106.40-123.33円の61.8%戻し)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

# EUR/USD

## ユーロ/ドル 6/20~24までの主な推移



<p><b>6/20</b> Monday</p>	<p>19日夜に行われたユーロ圏財務相会合でギリシャ向け次回融資についての結論が先送りされた事などからユーロ/ドルは1.4190ドルまで下落した。しかしその後、ユンケル・ユーログループ議長が「ユーロ圏財務相らは欧州安定メカニズム(ESM)の枠組の詳細について合意した」「ユーロ圏は安定性のために必要なことは全て行う」などと述べたのに続き、レグリング・欧州金融安定ファシリティー(EFSF)最高経営責任者が「EFSFの保証は将来4400億ユーロから7800億ユーロに引き上げられるだろう」と述べた事が好感されて1.43ドル台まで反発した。(①)</p>
<p><b>6/22</b> Wednesday</p>	<p>米国株の上昇を背景にユーロ/ドルは1.4442ドルの高値を付けたが、その後発表された米FOMC声明では景気判断が下方修正され、バーナンキFRB議長の会見で量的緩和第3弾(QE3)への言及がなかった事などを背景にNYダウ平均株価が下落に転じると、ユーロ/ドルは1.4340ドルまで下落した。(②)</p>
<p><b>6/23</b> Thursday</p>	<p>米新規失業保険申請件数が42.9万件と予想(41.5万件)以上に増加していた事を嫌気して時間外のNYダウ先物が下落。また、その後、国際エネルギー機関(IEA)が6000万バレルの石油備蓄放出を発表すると、原油価格が急落した。株安・原油安を受けてリスク回避の動きが強まると、ユーロ/ドルは1.4125ドルの安値を付けた。(③)</p>
<p><b>6/24</b> Friday</p>	<p>独6月IFO景況指数が114.5と、前回(114.2)や事前予想(113.4)を上回った事を手掛かりにユーロ/ドルは1.4305ドルまで上昇した。しかしその後、格付け会社ムーディーズによる格付け見直し引き下げを受けてイタリアの銀行株が一時売買停止となるなど、大幅に下落。イタリア国債が売られ、独・伊国債利回り格差が過去最高水準に拡大すると、ユーロが急落した。さらに、一部ギリシャ与党議員が(国際支援の条件とされる)緊縮財政法案に反対票を投じる見通しと伝えられた事もユーロ売り材料となり、ユーロ/ドルは1.4141ドルまで下落した。(④)</p>

### 上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米国の超低金利長期化観測

### 下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題  
→欧州金融機関に対する懸念
- ・ドル金利の先高観

巻末の特記事項を必ずお読みください。



# EUR/USD

## 今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4125～1.4442ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.7%の下落(ユーロ安・ドル高)となった。ユーロ/ドルは6月に入り過去4週続けて陰線を記録している。ただ、足元のドル高は、6月末が米国の半期決算期末にあたり、量的緩和第2弾(QE2)の終了と相まったリパトリ(資金回帰)によるものとの見方もできる。米国景気の減速懸念が台頭する中で、今後もドルが一方向的に買われる事は考えにくい。こうした中、今週29日に予定されているギリシャ議会での緊縮財政法案の採決がユーロ相場のカギを握りそうだ。同法案の議会通過が欧州連合(EU)と国際通貨基金(IMF)による120億ユーロの次回融資の条件となっており、現段階では、与党議員の賛成多数により可決が見込まれている。予想通り可決されればユーロは底堅く推移しそうだ。ただ、ギリシャ国民は緊縮財政に反対するデモを行い、24日には一部与党議員の造反も伝えられるなど、法案可決に向けた不透明感も漂う。万が一否決となれば、ギリシャの債務不履行(デフォルト)の可能性が一気に高まり、ユーロは大幅下落が避けられないだろう。(神田)

(予想レンジ:1.3850～1.4350ドル)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕  
 20日線 60日線 200日線  
 〔ボリンジャーバンド〕  
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/ドル 6/25週足引値:1.4179(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)  
 ユーロ/ドルは超長期で見ると、0.8234(2000/10安値)と1.6037(2008/07高値)の幅の半値である1.2136を割り2010/6/07に1.1874の安値を見た。その後は11/04高値1.4283⇒1/10安値1.2873⇒5/04高値1.4940⇒5/23安値1.3968⇒6/25高値1.4696となっている。現状は20日線(1.4391、6/25)、60日線(1.4398、6/25)より下、200日線(1.3857、6/25)より上に位置している。ボリンジャーバンドは6/25現在、上限:1.4690～下限:1.4093でバンド幅は縮小気味。大きなところでの方向感が見いだせず、右往左往している。目先は下げやすいが、1.4050を本格的に割り込まないと、リバウンドで上昇しやすいと言える。まずは90日線(1.4254、6/25時点)を6/25に割り込んだが、これがフロックかどうかを確かめに行くことになる。まだもみ合いで方向が出ていないが、出始めからついていってもいいかもしれない。上値ポイントは①1.4298(5日線、6/25段階)、②1.4397(60日線、6/25段階)、③1.4696(6/07高値)。下値ポイントは①1.4100(目先の下値支持線)、②1.4072(6/16安値)、③1.3907(1.2873-1.4940、今年の安値-高値の50%)【最重要】である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

# GBP/JPY

## ポンド/円 6/20~24の主な推移



<p><b>6/20</b> Monday</p>	<p>週末19日開催のユーロ圏財務相会合でギリシャへの次回融資についての結論が先送りされたことを嫌気し、欧州序盤のユーロ/円が大きく値を下げると、ポンド/円も128.89円まで連れ安。ただし、その後にユンケル・ユーログループ議長が「ユーロ圏財務相は欧州金融安定メカニズムについて合意した」、レグリング欧州金融安定ファシリティ(EFSF)のレグリング最高責任者が「EFSFの保証は将来4400億ユーロから7800億ユーロに引き上げられるだろう」と発言し、ユーロ/円が反発すると、ポンド/円も連れ高となり、130円台に乗せた(①)。</p>
<p><b>6/21</b> Tuesday</p>	<p>夕方、イングランド銀行(BOE)のフィッシャー理事が「中期的にデフレが進行するなら一段の量的緩和も考慮する」などと発言すると、ポンドは値を下げた(②)。しかしその後、ユーロ/円が上昇すると、ポンド/円も底堅く推移した。</p>
<p><b>6/22</b> Wednesday</p>	<p>東京市場中に130.50円の高値をつけたが、17時30分発表のBOE議事録にて複数のメンバーが資産買い入れ枠拡大の必要性が出てくるリスクがある点を指摘していたことが明らかになると、ポンド/円は急落(③)。さらに、米連邦公開市場委員会(FOMC)にて景気判断が下方修正された上、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長がその後の記者会見で量的緩和第3弾について踏み込んだ発言をせずNYダウ平均が下げると、ポンド/円の下げはさらに進んだ。</p>
<p><b>6/23</b> Thursday</p>	<p>NYダウ平均が下落した上、国際エネルギー機関(IEA)が石油備蓄放出を発表し原油が大幅安になったことでリスク回避ムードが強まると、ポンド/円は下落した(④)。</p>
<p><b>6/24</b> Friday</p>	<p>夕方、欧州株が軟調にする中でポンド/円は下落し、128.20円の安値をつけた(⑤)。その後は方向感に乏しく、128円台半ばでのみ合いに終始した。</p>

### 上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

### 下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## GBP/JPY

## 今週の見通し

足元の英国では利上げよりは量的緩和拡大の可能性の方が意識されやすくなっているため、ポンドはやや売りが先行しやすいムードにあるとみる。英経済指標の弱い結果や弱気な要人発言などには特に大きめに反応するかもしれない。今週は英第1四半期国内総生産・確報値(28日)や英6月PMI製造業(7月1日)などの指標発表が予定されている他、28日にはイングランド銀行(BOE)の金融政策委員会(MPC)メンバーであるキングBOE総裁、タッカーBOE副総裁、デール委員、ポーゼン委員、マイルズ委員が一堂に会して講演する。これらは特に注目されそうだ。

また、引き続き欧州の債務問題は為替相場の中心テーマになってこよう。関連報道を受けてユーロ/円が大きく動けば、ポンド/円も連れて動きだすだろう。併せて欧州の材料にも注目しておきたい(ジェルベズ)

(予想レンジ: 127.00~130.50円)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕  
 20日線 60日線 200日線  
 〔ボリンジャーバンド〕  
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/円 6/25週足引値: 128.44円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)  
 ポンド/円は、118.76円(2009/01/19安値)から163.04円(2009/08/07高値)まで44.28円上昇した。上記上昇幅のどこまでを下落によって戻すかが焦点だが、すでに安値122.98円(3/17)をつけており、長期的には依然として下落の流れのように見える。ポンド/円は4/08に高値140.00円をつけてからもみ合いながら下落推移している。現状では、200日線(131.82円、6/25)、20日線(130.96円、6/25)、60日線(133.20円、6/25)をいずれも下回って推移している。ボリンジャーバンドは6/25現在、上限: 133.88円~下限: 128.05円であり、バンド上限、下限ともに下落し、特に下限は取引値が押し下げる方向で下向きに推移している。5/31に高値135.11円を見て以降、下落で推移している。130~133円での揉み合いかと思われたが、いつの間にか130円を割り込んでいく。下落方向に勢いがかかる動きになりかねず、警戒をすべきところ。上値ポイントは①131.82円(200日線、6/25段階)、②133.20円(60日線、6/25段階)であり、下値ポイントは①128.05円(ボリンジャーバンド下限、6/25段階)、②126.00円(チャンネルライン上)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## GBP/USD

## ポンド/ドル 6/20~24の主な推移



6/20 Monday	週末19日開催のユーロ圏財務相会合でギリシャへの次回融資についての結論が先送りされたことを嫌気し、欧州序盤のユーロ/ドルが値を下げると、ポンド/ドルも1.6108ドルまで連れ安となった(①)。ただし、その後にユンケル・ユーログループ議長が「ユーロ圏財務相は欧州金融安定メカニズムについて合意した」、レグリング欧州金融安定ファシリティ(EFSF)のレグリング最高責任者が「EFSFの保証は将来4400億ユーロから7800億ユーロに引き上げられるだろう」と発言し、ユーロ/ドルが反発すると、ポンド/ドルも連れて反発した。
6/21 Tuesday	夕方、イングランド銀行(BOE)のフィッシャー理事が「中期的にデフレが進行するなら一段の量的緩和も考慮する」などと発言すると、ポンドは値を下げた(②)。しかしその後、ユーロ/ドルが上昇すると、ポンド/ドルも底堅く推移した。
6/22 Wednesday	東京市場中に1.6260ドルの高値をつけたが、17時30分発表のBOE議事録にて複数のメンバーが資産買い入れ枠拡大の必要性が出てくるリスクがある点を指摘していたことが明らかになると、ポンドは急落(③)。さらに、米連邦公開市場委員会(FOMC)にて景気判断が下方修正された上、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長がその後の記者会見で量的緩和第3弾について踏み込んだ発言をせずNYダウ平均が下げると、ポンド/ドルの下げはさらに進んだ。
6/23 Thursday	NYダウ平均が下落し、国際エネルギー機関(IEA)が石油備蓄放出を発表し原油が大幅安になったことからリスク回避ムードが広がると、ポンド/ドルは1.5937ドルの安値をつけた(④)。
6/24 Friday	夕方、欧州株が軟調にする中でポンド/ドルは1.5949ドルまで下げた。しかし17時に発表された独6月IFO景況指数が予想を上回る結果になり、ユーロ/ドルが反発すると、ポンド/ドルも連れ高(⑤)。ただし、NYダウ平均が下げるとポンド/ドルは再び1.59ドル台に値を沈めた。

## 上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和  
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

## 下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。



# GBP/USD

## 今週の見通し

今週は英米共に比較的経済指標発表等が多く予定されている。ポンド/ドルはそれぞれの結果を確認しての取引となるだろう。ただ、基本的に英国については利上げよりは量的緩和拡大の可能性の方が意識されやすくなっているため、ポンドはやや売りが先行しやすいムードにあるとみる。英経済指標の弱い結果や弱気な要人発言などなどには特に大きめに反応するかもしれない。また、来週に米雇用統計を控え、週後半以降は同国の雇用関連指標(30日:新規失業保険申請件数、7月1日:6月ISM製造業景況指数の雇用指数)は注目を集めそうだ。

また、引き続き欧州の債務問題に関連する報道を手掛かりにユーロ/ドルが大きく動けば、ポンド/ドルも連れて上下動するとみられる(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.5750~1.6110ドル)

## テクニカル分析



●ポンド/ドル 6/25週足引値:1.5960(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見た相場展開)  
 ポンド/ドルは、1.3501(2009/01/23安値)から1.7043(2009/08/05高値)まで3542ポイント上昇し、その後、1.60割れの下落を見ている。

4/28に直近高値1.6744を見て後、5/24には1.6056まで下落し、5/31には1.6544まで上昇してからは下落の推移となっている。

取引値は20日線1.6276(6/25)や60日線1.6331(6/25)を下回ってきている。しかし、200日線1.6029(6/25)を上回っている。また、ボリンジャーバンドは6/25現在、上限:1.6578~下限:1.5974であり、バンド幅の上限は上向き、下限は下向きで、取引値がバンド幅下限を押し下げている。ポンドの下落はトレンド的な強さを感じさせるところである。1.60割れでの引値が定着すれば、次に1.57、そのまた次に1.53台を目指す展開となりうる。上値ポイントは①1.6276(20日線、6/25段階)、②1.6331(60日線、6/25段階)、であり、下値ポイントは、①1.5935(3/28安値)、②1.5751(1/25安値)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 経済指標カレンダー (6/27~30)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/27	07:45	○	(NZ) 5月貿易収支	+11.13億NZD	—
(月)	21:30		(米) 5月個人支出 [前月比]	+0.4%	+0.4%
	21:30		(米) 5月個人所得 [前月比]	+0.4%	+0.1%
	21:30		(米) 5月PCEデフレーター [前年比]	+2.2%	+2.4%
	21:30		(米) 5月PCEコア・デフレーター [前月比]	+0.2%	+0.2%
	21:30		(米) 5月PCEコア・デフレーター [前年比]	+1.0%	+1.1%
	26:00	○	(米) 2年債入札(350億ドル)	—	—
6/28	15:00		(独) 7月GFK消費者信頼感調査	5.5	5.3
(火)	17:30	○	(英) 第1四半期GDP・確報値 [前期比]	+0.5%	+0.5%
		○	(英) 第1四半期GDP・確報値 [前年比]	+1.8%	+1.8%
	17:30		(英) 第1四半期経常収支	-105億GBP	-45億GBP
	22:00	○	(米) 4月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 [前年比]	-3.61%	-4.00%
	23:00	○	(米) 6月消費者信頼感指数	60.8	61.5
	23:00	○	(米) 6月リッチモンド連銀製造業指数	-6	-2
	未定	○	(独) 6月消費者物価指数・速報 [前月比]	±0.0%	+0.1%
		○	(独) 6月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.3%	+2.3%
	26:00	○	(米) 5年債入札(350億ドル)	—	—
6/29	08:50		(日) 5月鉱工業生産・速報 [前月比]	+1.6%	+5.5%
(水)			(日) 5月鉱工業生産・速報 [前年比]	-13.6%	-6.1%
	17:30		(英) 5月消費者信用残高	+5億GBP	+4億GBP
	17:30		(英) 5月マネーサプライM4・確報 [前年比]	-0.9%	—
	18:00		(ユーロ圏) 6月消費者信頼感・確報 [前年比]	--	—
	20:00	○	(加) 5月消費者物価指数 [前月比]	+0.3%	+0.2%
		○	(加) 5月消費者物価指数 [前年比]	+3.3%	+3.2%
	23:00		(米) 5月中古住宅販売成約 [前月比]	-11.6%	-1.0%
	26:00	○	(米) 7年債入札(290億ドル)	—	—
6/30	07:45		(NZ) 5月住宅建設許可 [前月比]	-1.6%	—
(木)	08:01		(英) 6月GFK消費者信頼感調査	-21	-24
	16:55	○	(独) 6月失業率	-0.8万人	-1.3万人
	16:55	○	(独) 6月失業者数	7.0%	7.0%
	17:00		(ユーロ圏) 5月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.0%	+2.2%
	18:00	○	(ユーロ圏) 6月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.7%	+2.8%
	18:30		(南ア) 5月生産者物価指数 [前年比]	+6.6%	—
	19:00		(日) 外国為替平衡操作の実施状況 (5月30日～) [月ベース]	0円	—
	21:00		(南ア) 5月貿易収支	-24億ZAR	—
	21:30	○	(加) 4月GDP [前月比]	+0.3%	-0.1%
	21:30	◎	(米) 6/25までの週の新規失業保険申請件数	42.9万件	--
	22:45	◎	(米) 6月シカゴ購買部協会景気指数	56.6	54

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 経済指標カレンダー (7/1)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/1	—		香港休場(特別行政区成立記念日)、トロント休場(建国記念日)		
(金)		○	(日) 5月全国消費者物価指数 [前年比]	+0.3%	+0.1%
	08:30	○	(日) 5月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	+0.6%	+0.5%
	08:30		(日) 5月失業率	4.7%	4.8%
	08:50	○	(日) 日銀短観 [大企業製造業業況判断]	6	-7
		○	(日) 日銀短観 [大企業製造業先行き]	2	2
			(日) 日銀短観 [大企業非製造業業況判断]	3	-4
			(日) 日銀短観 [大企業非製造業先行き]	-1	0
			(日) 日銀短観 [設備投資計画: 前年比]	-0.4%	+2.0%
	17:30	◎	(英) 6月PMI製造業	52.1	52.5
	17:30	○	(ユーロ圏) 5月失業率	9.9%	9.9%
	22:55		(米) 6月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値	71.8	72
	23:00	◎	(米) 6月ISM製造業景況指数	53.5	52.0
	23:00		(米) 5月建設支出 [前月比]	+0.4%	±0.0%

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com